

北 陵

名古屋市立北陵中学校

第2号
令和3年7月12日

昨日まで名古屋市に発令されていた「新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置」が解除されましたが、全国的には予断を許さない感染状況が続いています。今後も安心して学校生活を送ることができるように、引き続き感染予防対策を徹底して行っていきます。特に夏季休業中は、人の移動が増えることが予想されます。ご家庭の方でも、感染予防の取り組みにご協力をお願いします。



本日、年間行事予定(8月以降)をお配りしています。体育大会の日程変更に伴い、中間テストなどの日程が一部変更されていますのでご確認ください。

なお、体育大会では、マスクを外した状態でも安心して競技ができるように、運動場全体に生徒座席を広げます。そのため、保護者の方の観覧スペースを確保することができません。大変心苦しいですが、今年度も、来賓、保護者の皆様、地域の皆様の参観をご遠慮いただくことにしました。申し訳ございませんが、ご了承ください。

○ 熱中症に気を付けましょう

例年、梅雨が終わると気温が高くなり、熱中症の危険が高まります。本校では、7月から、登下校時や体育の授業時に帽子(キャップタイプで、華美でなく、無駄な装飾のないもの)を着用できるようにしました。

また、先日お伝えしましたように、体育大会の日程を9月30日から気温の低い10月21日に変更しました。今後も、熱中症予防のため、暑い日の活動時には、適度な水分補給や休息を確保していきます。



今後、暑さ指数(WBGT)が基準以上になると予想される場合、「熱中症警戒アラート」が発令される可能性があります。アラートは前日に発令されるため、午前中や夕方には暑さ指数が基準に達していないことも考えられます。そこで本校では、アラートが出ているかどうかではなく、暑さ指数を体育館と運動場で測定し、暑さ指数がアラートの発令基準に達しているかで活動するかどうかを判断しています。

暑さ指数が基準に達していない場合は、熱中症対策を十分に行った上で活動します。暑さ指数が基準を超えている場合は、エアコンのある部屋以外での活動を中止します。なお、お子さまの体調等で熱中症の心配がある場合は、顧問に連絡の上、欠席させていただきます。ご協力をお願いします。

○ 連絡手段のデジタル化を進めます

近年、保護者の方の携帯電話やスマートフォンの所持率が上がっており、即時性・利便性など様々な面から、こうした情報機器を使って連絡を取り合うことが有効だと考えます。本校における「なごやっ子安心メール」の登録率がほぼ100%となっている状況を踏まえ、本校では、連絡手段のデジタル化を進めていくことにしました。

例えば、「参加希望調査」や「各種アンケート」では、案内に印刷されたQRコードをお手持ちの携帯電話やスマートフォン、タブレットなどを使って読み取り、報告ができるようになります。従来通り、紙で提出することもできますので、ご安心ください。



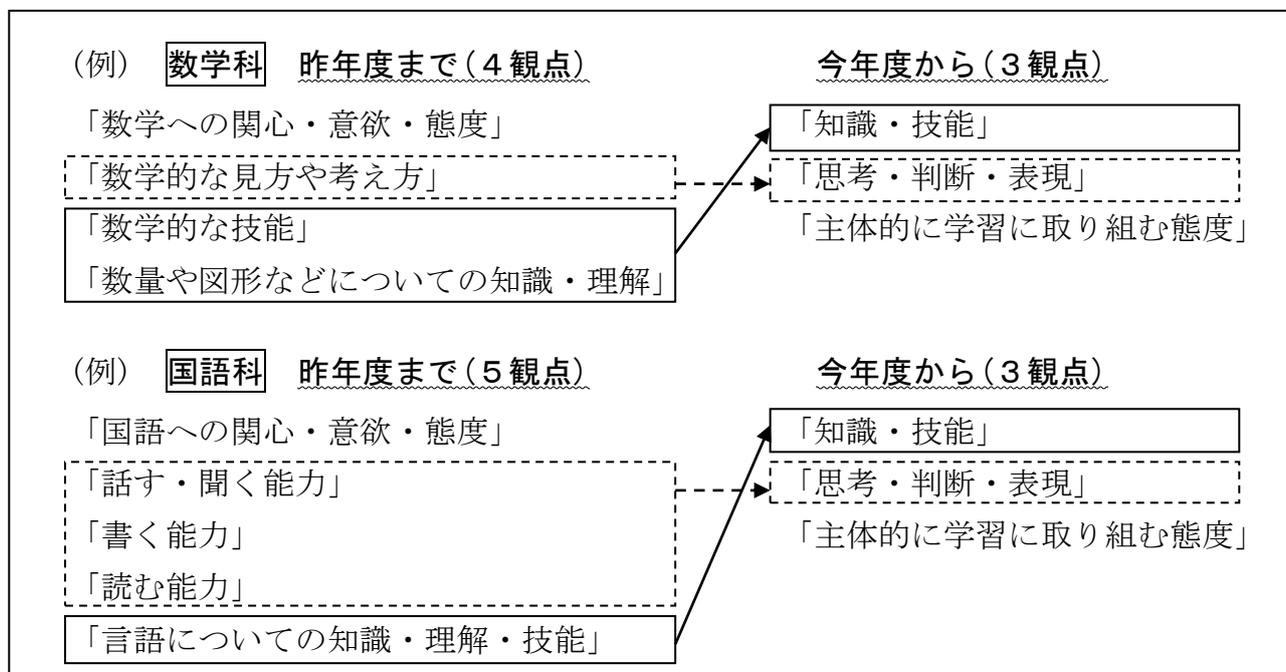
また、緊急時にのみ使用していた「なごやっ子安心メール」ですが、日常の連絡手段として、さらに活用できるように検討を進めています。機種変更などでメールが届かなくなってしまった場合は、担任にお伝えください。お子さまを通じて登録用紙をお渡しします。

裏面もご確認ください

○ 学習評価の観点が変わりました

昨年度末にお伝えしましたが、今年度より学習評価に変更がありました。昨年度までは、教科ごとに異なる4つの観点(国語科は5つの観点)があり、お子様の学習状況を、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価していました。今年度から、観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに統一されました。

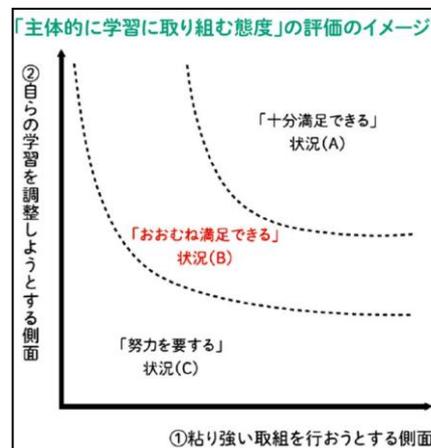
各教科、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価しています。教科によって、従来の観点との関連性が異なります。「数学科」と「国語科」の例をお示ししましたので、ご確認ください。



また、昨年度までの観点「関心・意欲・態度」が無くなり、新たに観点「主体的に学習に取り組む態度」が設定されました。「主体的に学習に取り組む態度」を評価する上で、下の二つの側面に着目をしています。

- ① 「知識・技能」を獲得したり、「思考・判断・表現」の力を身に付けたりすることに向けた、粘り強い取り組みを行おうとしている側面
- ② ①の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

この二つの側面からお子さまの学習状況を把握し、右の図に当てはめて評価をしています。



本校では、新たな課題に取り組みせたり、ポートフォリオという反省用紙等に、自分の学習状況や課題を記述させたりしています。こうした活動を通して、お子さまが自分の学習状況を振り返り、自分に合った学習計画を見直すように働き掛けています。最終的に、「知識・技能」「思考・判断・表現」に結びつくような学習を継続できているかを評価することになります。

例えば、授業中は真剣な態度で取り組んでおり、提出物を欠かさず出していたとしても、自分の苦手なところを改善するような取り組みが不十分なため、学力が定着していないと判断される場合は、「努力を要する」状況(C)となります。

ご家庭の方でも、お子さまの学習状況を定期的に見ていただき、学力向上につながるような学習ができるように声掛けをしていただければ幸いです。